

## 2019年度千葉県高等学校総合体育大会サッカーの部 決勝 総評

令和元年6月8日（土）から、9日（日）、15日（土）、19日（水）、の日程で千葉県高校総体サッカーの部決勝トーナメントが行われた。先に行われた一次トーナメントの結果を踏まえ、16チームが全国総体千葉県代表の1枠をかけてトーナメント方式で試合を行った。

流経大柏、中央学院、日体大柏、市立船橋がベスト4に進出し、準決勝が千葉県立柏の葉公園総合競技場、決勝が千葉県総合SC東総運動場にて行われ、優勝が日体大柏、準優勝が流経大柏という形で2019年度千葉県総体の幕が閉じた。日体大柏は7月26日（金）から沖縄県で行われる全国大会に出場する。

攻撃では、シンプルに前線にボールを配球して起点を作ろうとするチームの他に、相手プレッシャーを回避する手立てとして中盤の選手がDFラインに降りて関わり、DFライン+中盤で数的優位を作るチーム、相手システムでスペースができがちなエリアを使うチーム、サポートの距離を近くして局面で数的優位を作るチーム等があった。各チーム、攻撃のきっかけの作り方をもち、特徴を生かそうとする意図を感じることができた。

それに対し守備では、マークをずらそうとする攻撃側に対し、システムを変えてマークをはめ込みやすくしたり、プレッシングラインを変えて対応したりする駆け引きが見られた。前線の選手の誘導や追い込み方、守備のスイッチを入れるタイミングやエリア等、各チーム意図を持って落とし込んでいた。また、ゴールに直結するロングパスやセカンドボールの攻防を得意とするチームに対し、同じようにロングパスやセカンドボールの攻防で応戦する戦い方、守備を固めて応戦する戦い方、自チームのスタイルで主導権を取ろうとする戦い方が見られた。

今大会では、スピードやドリブルでの仕掛けが武器となるチームや選手が目立った。日体大柏の耕野、流経大柏の渡會、市立船橋の畑、森、中央学院の藤本等チームの攻撃にアクセントを加える選手やチームの攻撃の形を担う選手もいた。そういった個の育成が今後さらに進んでいくことを期待するが、それとともにそういった選手をストップすることのできる守備の対人能力の向上が課題となる。

今大会、日体大柏は、市立船橋、流経大柏のプレミアリーグ所属校を2校破って優勝した。日体大柏の全国大会での活躍を期待するとともに、今後、各チームの競争がより良い影響を及ぼし合い、千葉県のサッカーが益々活性化していくことを期待する。そして、チームの強化とともに、サッカーを取り巻く環境がより一層向上し、サッカーが文化としてさらに発展していくことを期待し総評とさせていただきます。

千葉県立千葉高等学校 堤 誠太郎